

たまち街角ニュース

令和6年夏季
増刊号
田町町内会

“たけのこ会”が一番丁で七夕飾り

以前から、一番丁4丁目商店街アーケードに“七夕飾り”を飾ろうと挑戦してきましたが、コロナ禍で断念せざるを得ませんでした。今年の4月頃から、“たけのこ会”が主体となって町内会、子供会そして制作場所及び資金を提供していただいた大日堂の協賛の下、七夕飾り“を制作し、この度アーケード下に飾ることができました。吹流し・千羽鶴・輪とうしとオーソドックスなメニューですが、“力作”、“手造り100%”との評価を得、写真を撮る方も散見されました。子供会も独自の飾りつけを行い、仙台市唯一の子供会の出展作となっています。



塩川書店五橋店 惜しまれながら閉店

「マツオ書店」が五橋2丁目から去り、唯一頑張っていた「塩川書店五橋店」も、8月31日に惜しまれながら閉店し、そのニュースは、地元のテレビだけではなく全国版のテレビニュースでも放映されました。塩川書店と言えば、東日本大震災時に入荷が止まった「週刊少年ジャンプ」を店頭に、たくさんの子供達が回し読みできるようにした。ことで話題になりましたが、親と喧嘩したり、親の勤務時間の都合で居場所がない子供達が安心して過ごせる憩いの場を提供していただいたことでも有名でした。2001年から「五橋店」を開店し、夫婦共々二人三脚で切り盛りしてきましたが、通信販売やインターネットによる電子書籍の台頭にあらがえず、今日には至ったとのこと。31日には、花束で彩られた店には、多くのなじみ客が訪れ、店主との別れを惜しんでいました。



定禅寺ストリートジャズが9月7、8日に開催され、町内関係者も演奏に参加

9月8日は、酷暑の中曇天に恵まれ、ジャズファンとしては最高の日となり、町内関係者が演奏する日にち・場所が同じで、演奏時間もほぼ連続するというレポートとしては、これ以上の組み合わせとなりました。西村さんのお嬢さん（若林さん）が属する「ゴールドenフラス」は2人の高校生を含む8名で構成され、幼児を背中に背負いながら熱演される方もおり、司会者からは、「この児が15年後にジャズフェスに登場されることを期待します」との話があり会場を沸かせておりました、ジャズフェスは初登場でしたので、演奏後、若林さんは“やりきった”と安堵の表情を浮かべておりました。約1時間後、ヘアーサロン「Leaf」の千葉さんが属するジャズフェス常連の「Soul Messengers」が登場し、安定感のある演奏で、久しぶりの抒情味のあるソウルミュージックを聞かせていただきました。4年振りなので、“癒れた”と言い残していた千葉さんですが、充実感が漂っていました。

